

国立天文台・天文情報センター・特別客員研究員 中桐正夫

**\* 太田機械製作所製 PHOTO ADJUSTER 收藏**

この35mmフィルムプロジェクター(写真1)の入手経緯の詳細がわからない。天文機器資料館の計算機室にあったもので、運搬箱が写真1、その本体が写真2である。この運搬箱には東京天文台時代の備品番号N-ト-12が記されているから、東京天文台時代の備品である。1988年に東京天文台は国立天文台に改組しており、古いものの追跡が困難である。



写真1



写真2

この器械には、制作会社の名盤(写真3)、機械の名称の名盤(写真4)がある。製作



写真3 制作会社の名盤

会社の名盤には、OHTA KIKAI KOGYOU とあり、名称の名盤には、PHOTO ADJUSTER Eigar という名称とあり、PAT. PENDING No. が記されている。どうやらこの器械は 35mm フィルムの検査機のようなものである。そして、使用者の登録用のはがきが投函されずに残っていた（写真 6）。



写真 4 名称の名盤

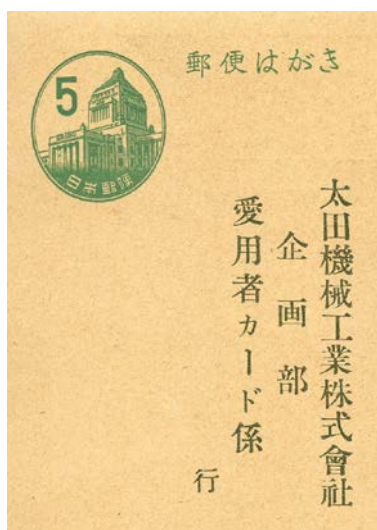


写真 6

太田機械工業株式会社はインターネットで検索すると、浜松にある同名の会社がヒットするが、この器械を製作した会社は東京都大田区駒込にあった会社であり、はがきが 5 円の時代の情報なので、現在の会社との関係は不明である。国立天文台には、アーカイブ新聞第 739 号の「簡易スライド投影機収蔵」という記事でメーカーが OHTA OPTICAL.CO. LTD、名称が、PORTABLE Eigar TV TABLE VIEWER というものがあり、アーカイブ新聞第 740 号には金子天文台からの譲渡品の中に、スライドプロジェクター: Eigar Projector があつたと書かれている。太田機械工業は太田光学と名前を変えたスライドプロジェクターの類のメーカーだったようだ。

この PHOTO. ADJUSTER なるものはかなり本格的なもので、いろいろな工夫がなされている。本体の右の「つまみ」を緩めれば光源と投影光学系の部分が上下出来て、拡大率の変更ができ、また光学系には焦点合わせのヘリコイド機構が備えられている。

写真 5 では、光源部・光学系部がかなり上にあげられた状態であり、それぞれの部分の説明を入れておいたが、最上部が光源であり、光源の下に 35 mm フィルム挿入器具があり、フィルムの巻取り・送り機構がある。その下の光学系にヘリコイドがついている。光学系の下穴には、赤色フィルターが出し入れできるようになっている。また最下部には、部品などを収納する引き出しがついている。

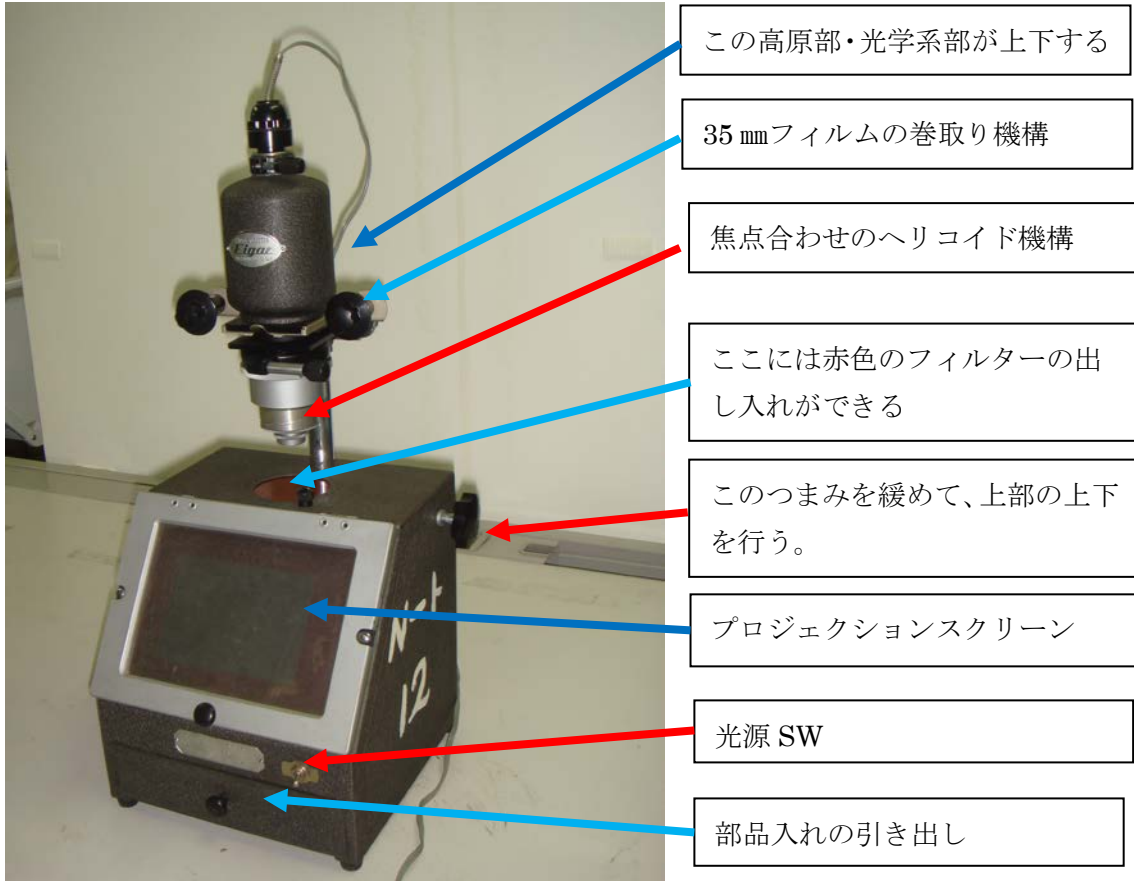


写真5

焦点合わせのヘリコイド部が写真6である。



写真6 光学系部 左が焦点合わせヘリコイド

写真7が赤いフィルターが入っていない状態、写真8がフィルターが入れられた状態である。フィルターの右下の黒い丸いものがフィルターの出し入れのためのつまみである。写真7のフィルターの穴の中には本体上部の機構の上下のクランプ機構が見えている。



写真7

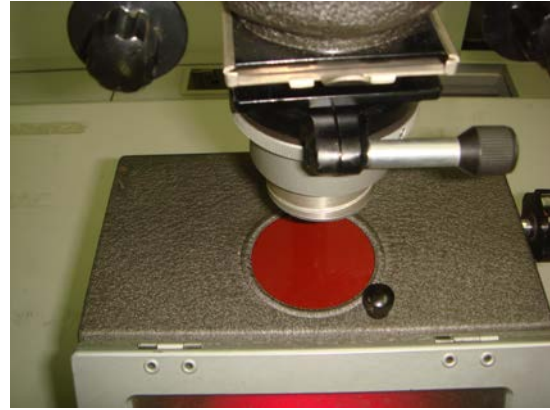


写真8

写真9が、本体右のつまみから延びるロッドが上下機構のコラムを締め付けるクランプ機構である。

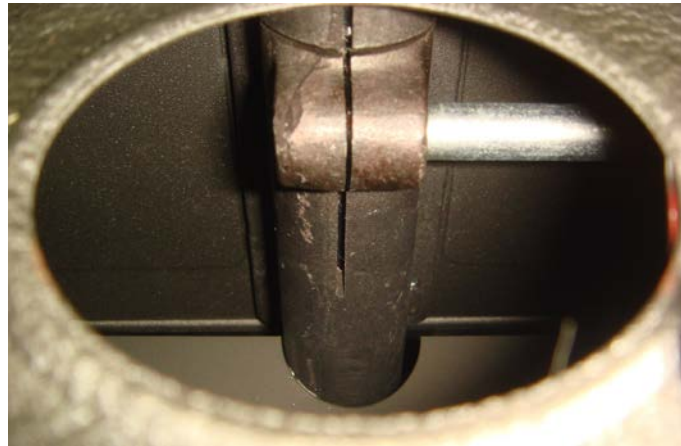


写真9 上下のクランプ機構

長尺の35mmフィルムの送り機構には2枚のマスクが用意されており、フルサイズフィルム及びハーフサイズフィルムの両方が使えるようになっている。写真10の左がフルサイズ用マスク、中央はハーフサイズ用マスクを装着し下側から見た様子、右はスライド用のマスクである。

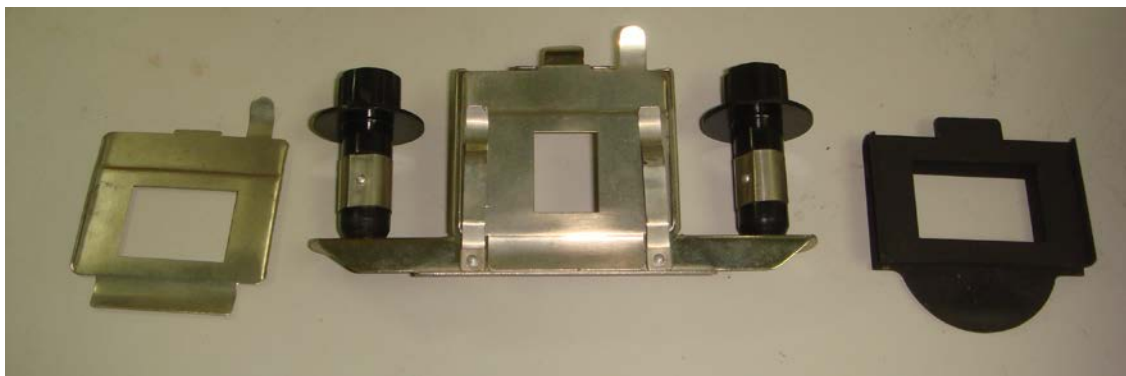


写真10

さらに、フルサイズ用マスクに装着する焦点合わせチャートが用意されている(写真11)。



写真11 焦点合わせチャート

これらアーカイブ新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、[arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp](mailto:arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp)